

# 中南米「建物耐震技術の向上・普及」研修コースについて(1)



国立研究開発法人 建築研究所

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

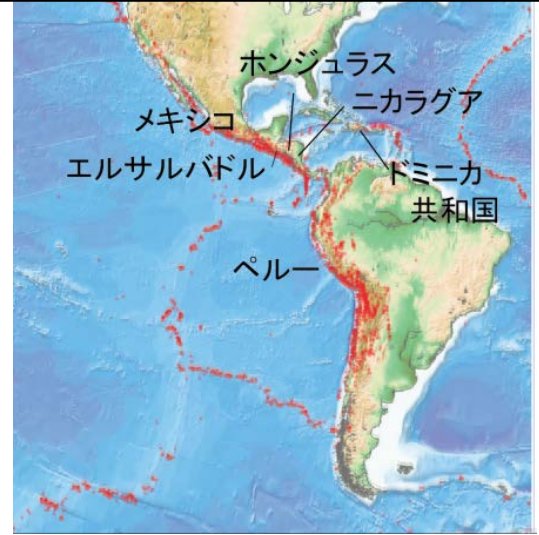
## はじめに

中南米「建物耐震技術の向上・普及」研修コースを、スペイン語による耐震工学の短期コースとして、国際協力機構(JICA)に提案し、平成26年度～28年度の3カ年に、実施している。中南米諸国は、地震が頻発する地域であるが耐震建築の技術普及が遅れており、地震による地すべり、建物倒壊等により、これまで多くの人的・物的被害が発生している。

本研修では、研修生が耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を講義・構造実験・現場見学により学ぶことにより、自国での耐震建築の普及、及び耐震建築技術者の育成により、将来の地震発生時の被害を軽減させることを目的としている。

中南米諸国の専門家が参加しやすく、さらに研修効果を上げるため、中南米諸国で多く使用されるスペイン語による講義(逐次通訳)と講義ノートを用意し、研修中に実施する構造実験を、参加国の一つで実施している。今回は、これまでの平成26,27年度に実施した研修の概要を示す。

## 中南米諸国と本研修(H27)参加の6カ国



## 開講式



## レディーミクストコンクリート製造工場視察



# 中南米「建物耐震技術の向上・普及」研修コースについて(2)



国立研究開発法人 建築研究所

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

## 第1回研修(H26)

第1回中南米地震工学研修は、平成26年6月～7月に実施された。ドミニカ共和国、エルサルバドル、ニカラグア、ペルーの計**14人の研修生**が参加した。帰国後の母国での活動により、第2回や別の研修に参加した例もある。

## 第2回研修(H27)

第2回は、平成27年5月～7月に実施された。新たに、ホンジュラス、メキシコが加わり、6カ国、16人が参加した。在外研修は、エルサルバドル共和国サンサルバドル市にある**国立エルサルバドル大学(UES)**と**私立ホセ・シメオン・カニャス中米大学(UCA)**で実施された。在外研修には、本研修の16名に加え、エルサルバドルの大学院生10名も参加した。また、エルサルバドル国営テレビ局Canal-10からTaishinプロジェクト及び中南米研修についてインタビューを受けた。

## まとめ

本研修は、平成28年も実施する予定としている。今後も、地震災害による被害の軽減に尽力することが望まれている。

## レンガ造試験体加力前(UES実験棟)



## 壁試験体実験とTV取材(UCA実験棟)



## 閉講式(エルサルバドル,ホテル会議室)

